

みえじびか

みみより

新聞

平成21年秋号 NO. 1

発行：三重耳鼻咽喉科 荘司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>

携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

<ご挨拶>

こんにちは。いつも当院を受診して頂く皆様に、耳鼻咽喉科に関する豆知識や最近の話題を提供させて頂く、「みえじびか みみより新聞」を発行することとなりました。記念すべき第1号は、小児に多い急性中耳炎のお話と、高齢者で問題となる補聴器のお話です。

<急性中耳炎とは・・・>

保育園に通っている1歳児。3日くらい前から黄色い鼻や咳が出ていて、昨日から38℃を超える発熱、機嫌は悪く、食欲もない・・・こんな症状、お子さんに見られたら、まず急性中耳炎を疑って下さい。

急性中耳炎とは、鼻の中で増えた細菌が、耳管（じかん）という鼻と耳をつないでいる管を通して中耳に炎症を起こす病気です。中耳とは、鼓膜の奥にあるお部屋で、ここに炎症が起こると、鼓膜が赤くなったり、膿がたまって鼓膜が腫れ上がったり、どんどん腫れると耐えきれなくなった鼓膜が一部裂けて膿が流れ出て耳だれになったりします。

上に書いたお子さんのように、0歳から2歳未満のお子さんで、保育園児、兄弟が多い、親が喫煙している、などがかかりやすい

要因と言われています。これは、小さいお子さんは免疫力がまだ十分でなく、保育園や兄・姉から菌をもらうとなかなか治りにくいためです。

中耳炎を起こす細菌は、肺炎球菌、インフルエンザ菌（いわゆるインフルエンザではありません）、ブラハンメラ・カタラーリスが3大菌と言われています。最近の問題は、これらの菌が、長年抗生剤の暴露を受けて耐性（薬に対する抵抗力）を獲得し、薬が効きにくくなってきている事です。10年前には飲めば間違いなく効果を発揮した抗生剤も、今では全く効かないこともあります。ただ、薬が効くか効かないかは、菌の種類だけの問題ではなく、かかった人の免疫力や体力、環境の影響も大きくあります。また、新しい薬や耐性菌を作りにくくするための薬の投与方法なども研究されており、個人にあった治療の方法を選択して行います。

基本的にはお薬を飲んで治しますが、鼓膜の腫れがひどい人や熱が下がらない人は、鼓膜切開をして膿を出してしまいます。耳だれが出ていたり、切開をした後の人には、耳浴といって、耳の中に自宅で消毒液（抗生剤の入った外用薬）を入れます。これらの治療でも全く効果が無い場合は、点滴や入院治療が必要なこともあります。

一旦良くなっても、中耳には炎症のなごりで滲出液（粘膜からにじんでくる汁）が残ります。たくさん残っていると聞こえにくくなりますので、鼓膜がきれいになるまでは診せてくださいね。

また、治っても、繰り返し中耳炎を起こしてしまうお子さんもいらっしゃいます。風邪のひきはじめ？と感じたら早めに受診して治療をしたり、ある種の漢方薬で免疫力を高めたりすることで、中耳炎にかかりにくくすると思います。

（副院長：坂井田 麻祐子）

<補聴器のお話し。その1>

補聴器のイメージは残念ながら、あまりよくありません。「買ったけど大切にしまってある。」や「神棚さんに上げてある。」とか「ガーガー言って役に立たない。」という人が多いのです。なぜでしょうか？

人間誰でも50歳ぐらいになると、少しずつ視力が落ちて、いわゆる老眼が始まってきます。これはごく自然に受け止められて、「ああ私もいよいよか。」と老眼鏡のお世話になります。

聴力も目と同じ頃から少しずつ難聴が始まっていますが、まず気付く人はいません。耳は遠くなっても殆どの方は「私はよく聞こえる。」と答えます。視力の衰えは不自由さが、すぐ自分で分かりますが、耳は自分が聞こえた分に対してのみ反応していますから、聞こえなかったものに対しては無視しているわけです。この点が目と耳の違いです。自分が「最近耳が遠くなったな。」と感じたときは、すでにかなり難聴は進んでいます。老眼と同じで老人性難聴に対しては今のところ、治療法は無く、補聴器に頼らざるを得ません。メガネは自然に受け入れられるのに、なぜか補聴器となると、すごく抵抗があるようです。かなり高齢の方でも、補聴器の必要性をお話しすると「そんな、年寄りくさいもの。」といわれます。しかし現代社会においては、特に現役で仕事をしてみえる方には、人と人とのコミュニケーションは基本中の基本で、最も大切な事です。このコミュニケーションをうまく保つためにも補聴器は必要となってきます。

いまどき補聴器が、かっこわるいと思う人はいません。それよりも聞こえないでいい加減な返事をするほうが、社会生活においてよほど悪影響を及ぼします。聴くことを疎かにすると、はやくボケることも知られています。

では良い補聴器を求めるにはどうすればよいのでしょうか。

まず第一に必要な？と思ったら、耳鼻咽喉科専門医に相談してください。新聞広告をみていきなり補聴器店に行くのは間違いです。耳鼻科でもいまは日本耳鼻咽喉科学会が認定している「補聴器相談医」がいるところがよいでしょう。この医師名はネットで公開されています。(もちろん三重耳鼻科も相談医です。)

まず耳鼻科で耳にいろいろな病気が無いか、補聴器をつけたらどれくらい効果があるかをみてもらいます。間違っても通販やネットで買うものではありません。例えが悪いかもしれませんが、失った足の義足を通販で買う人はいません。また人のをもらったけど使えないか？という人もいます。人の義足では歩けません。次号に話は続きます。

(院長：庄司 邦夫)

・・・今年は梅雨が開けたと思ったら、夏らしい日も数えるほどで、秋風が吹く日々が続くようになりましたね。急に寒くなったり、暑くなったりで、風邪を引きやすい方、喘息発作の出やすい方、めまいの起こりやすい方が増えている印象があります。新型インフルエンザもぼちぼち津の地にも到来しており、油断ができません。季節性インフルエンザの2倍と言われる感染力を持っており、冬に近づけば猛威を奮うことは想像に難くありません。とは言え、マスクや消毒剤は品薄、ワクチンも生産不十分、しかし学校や会社は休めず・・・各自で体力を付け、毎日基本的な感染予防をやるより仕方ないのかもしれませんが。いわゆる「うがい、手洗い」は今でも感染予防の基本です。うがいは水道水で、手洗いは15秒以上流水で洗うことが薦められています。もし咳が出たら、咳エチケット。マスクがなくてもハンカチや手で口を覆ってウイルスを飛ばさないようにして下さいね。咳は口から2m、くしゃみは3m 飛ぶそうです。もちろん覆った手は15秒以上洗ってください。それでは次号をお楽しみに。